

ロシア、オデッサ商業港攻撃

ウクライナ南部穀物輸出台意の翌日

【キーウ共同】ウクライナ軍は23日、南部オデッサの商業港がロシア軍のミサイル攻撃を受けたと発表した。両国代表は22日に、ロシアの黒海封鎖でウクライ

ナ産穀物の輸出が滞っている問題を受け、トルコ・イスタンブールで輸出再開と航路の共同監視を柱とする合意文書にそれぞれ署名したばかりだった。

（3面に関連記事）

合意では、オデッサなど計3港から穀物を運び出し、両国は商船や民間船、関連する港湾施設にいかなる攻撃も行わないとしていた。合意はトルコと国連が仲介した。24日でロシアの

ウクライナ侵攻から5カ月となる。

世界で小麦価格が高騰し食料危機の懸念が高まる中、合意の実効性が課題となっていた。ウクライナ外務省は23日、攻撃を受け「国連のグテレス事務総長やトルコのエルドアン大統領にツバを吐いた」と非難。グテレス氏も報道官室を通じて、攻撃を「明確に非難する」との声明を発表し、合意履行を関係国に求めた。

ウクライナ側によると、オデッサ港には2発着弾。同港には輸出を控えた穀物が貯蔵されていた。同国のクブラコフ・インフラ相は攻撃後に「われわれは穀物輸出の準備を続ける」と表明した。

ロシアのショイグ国防相は22日「ロシアは約束を履行する」と述べた。一方でラブロフ外相は、ロシアと国連が同日署名した自国産の穀物や肥料を世界市場に円滑に供給するための覚書が合意文書と一体だと主張。欧米側の対ロシア制裁の緩和を要求した。

だと述べた。昨年収穫した2千万トに加え、今年の収穫の輸出が可能だとし「ウクライナが戦争に耐えられることを示す証拠だ」として合意を歓迎した。一方で2月の侵攻後に海上封鎖し、港湾や倉庫、サイロを攻撃し輸出を妨害してきたとしてロシアを非難した。

米国家安全保障会議（NSC）のカービー戦略広報調整官は、輸出再開の成否は「ロシアが取り決めるかどうにかかっている」と述べた。

署名式に同席したグテレス氏は、食料危機への懸念を特に強めている発展途上国にとって今回の合意は黒海の「希望の灯台」だと述べ、歓迎の意を示した。

